

---

# CHAOS!!

豹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト  
<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

CHAOS!!

### 【Nコード】

N8319Y

### 【作者名】

狛

### 【あらすじ】

元番長でヤンキーだった黒崎真冬（♀）、現不良でツンデレな早坂、俺様何様鷹臣様の佐伯鷹臣、忍んでる由井忍、思考メルヘンな緑川学園の番長・桶川響太郎。その他もろもろ、気付いたらBLEACHの世界へ。巻き込みつつ巻き込まれる派茶目茶ストーリー！（たぶん！）俺様ティーチャー×BLEACHのクロスオーバー小説です。

## #1・始まり（前書き）

突発的に書きたくなりました。

ゆっくり書いていこうと思います（＾＾）

ギャグセンは低いのでご注意を！

## #1・始まり

拝啓、母上様。

一人暮らし始めて、ようやく朝食を作れるようになってきたこの頃です。

「続いては今日の占いカウントダウン!!」

朝七時ジャスト。

テレビの前に朝食をセッカップラーメンとして、画面に食い入る。

「今日のワースト1は射手座のあなた!ミラクルが起きすぎて全体的に不幸な日。刃物と袴に注意して下さい」

ぼろっと箸が口から落ちた。

「注意って……どう注意すればいいのさ……」

キーンコーンカーンコーン

朝の不吉(?)な占いから、学校に来てボーっとしてたらいつの間にかお昼休み。

椅子に座りすぎてお尻が痛いな なんちて。

とりあえず、マイフレンドの早坂くんに占いのことを相談してみる。

「そりゃ、手を切らねーよーにすりゃいいんじゃないかねーの?」

早坂くんは金パで不良のくせして、実はすごい生真面目さん。

私より頭がいいなんてちょっとジェラシー。

「じゃ、じゃあ袴は!?!」

「剣道部に注意とか」

「なるほど!」

なんかあれだね。こういう会話、ザ・女子高生！みたいな！

やんちゃ（番長）してた頃なんか、会話が

『真冬さん！西校が攻めてきた！』

『真冬さん！桜田のパンツウサギでした！』

『真冬さん！ぜひ縛ってください！それはもうきつく！！』

な感じだったしねえ。

ちなみに真冬は私で、桜田ってのは西校の番長ね。

私が見たのはハートのパンツだったなあ。

「あ、そーだ。佐伯が、今日の部活は外に行くって」

「なんで？」

佐伯センセー、もとい佐伯鷹臣は我等が顧問、かつ私の幼なじみ。

私がやんちゃするようになったのって全部この人が原因で。

鷹臣くん、学生時代は番長で関東統一してました。

そして、私達が入ってる部活っていうのは……

「それはもちろん俺のことと呼んでくれるだろうなあ!？」

「由井、いたのか」

「忍者どっから出てきたの!？」

「ふっ……俺にかかればこんなのちょちょいのちょいさ!！」

「いや、校舎改造しちゃうまいだろ」

……うん、私達、風紀部。

この眼鏡かけた残念な人が由井忍って忍者野郎で。

とにかく神出鬼没。

キンコーンカーンコーン……

「あ、トイレ行くの忘れた」

「「……………」」

あつという間に放課後！

学校から出て、私、早坂くん、鷹臣くん、忍者の順に並んで歩きます。

「ねえ、今日は何するの？」

「あ？警察に行くんだよ」

け、警察だと……！！？

「鷹臣くん何しでかしたの！？人！？人殺したの！？」

「それで鷹臣くん！暗殺はどのように行っ たんだい！？」

「いいから黙ろうか」

鷹臣くんに殴られる。

ゴツン、というかゴキヤツみたいな音。

小さい頃から殴られ慣れてるけどやっぱ痛いよ！！

忍者もゴロゴロ転がってるし！

「でもなんで警察なんかに行くんだ？」

「家の鍵を落としてな。拾われてねえか確かめに」

「それだけ！？」

「それだけとはなんだ、真冬。部屋に入れねえんだぞ、寒みいだろ  
うが」

「だからってなんで私達まで！？なんか私達が悪いことしたみたい  
じゃん！！」

「いいじゃねえか。どうせ暇だろ」

うつわ、事実なだけに反論できない！

でも警察なんて行きたくない。私、前科（喧嘩してたら逃げ遅れて  
捕まった）あるしね！

「あ、モールス」

と、前から来る見慣れた人。

「あー、番長じゃないですか！」

番長の桶川響太郎。コンクリ粉砕できる鉄拳の持ち主で趣味はモールス。

私も趣味モールス。

ビバ・モールス仲間！！

そして番長はねこまたさんていう、よく分からないキャラクターが大好きです。

思考がメルヘン。

「番長、こんな時間に何してたんですか？」

「いや、映画を観に」

なるほど、ねこまたさんの映画ねきつと！

「てめえらは何して——」

その時だった。

「キヤー!!」

通行人みんな、私達の頭上を見て、誰かが叫んだ。

「な、なに!?!」

あ、やばっ。

鉄骨――

ガシャアアアン!!

はい、気を失いました。

……ってなにこれ!!

占い外れてんじゃん!!

私のシャイニンな高校生活は!?!

死んだの? 私死んだの!?!

何とか言いつてよ! ジョニー!

「——っは！」

目が覚めた。

あれ？夢……？

「あ、起きた」

「ほんとだ！」

私の顔を覗いてるお二人さん。一人は黒髪に一人は茶髪の女の子。

シャ、シャイニン！

「あたし親父呼んでくる」

「あたしも行くー！」

走っていく姿を可愛いなあ！と思いつつ。

ここはどこなんだ！

「あれ、あんた起きたのか」

ガチャッと入ってきたのは同い年くらいの男の子。

髪がオレンジ色だ……

もしかしてヤンキーなのかな？

「言つとくけど、コレ自毛だからな」

なんか早坂くんに似てなくもない……気がしなくもない。

「俺は黒崎一護。あんたの名は？」

な、

「もしかして生き別れのお兄ちゃん!？」

「なんでそうなるんだよ!!」

「い、痛い!!怪我人をぶつちやいけないんだよ!!」

「あ、悪い……で、あんたの名前」

「黒崎真冬。よろしくね！お兄ちゃん！」

「誰がお兄ちゃんだー！！」

拝啓、母上様。

なんか面白いことになりそうです。

## #1・始まり（後書き）

とりあえず始めました。

それぞれキャラの個性をうまく書けたらいいな。

## 自己紹介しちゃうゾ (前書き)

俺ティーのキャラ紹介。

## 自己紹介しちゃうソ

No.1 黒崎真冬（♀）

緑川学園一年生。

前の学校（東校）では番長だった。きっかけは、小学生の頃から幼なじみで当時の東校番長だった佐伯鷹臣に引ッ付いていたから。何回殴られても（骨折しても）付き纏うという異常な執着ぶりに、鷹臣も恐怖を感じたらしい（本人は覚えていない）。

ある日、「県統一したぜやっほーい！By子分」と喧嘩直後にその場で真冬を胴上げしてたら警察が登場。

子分達に置いてけぼりくらって見事パクられましたとさ。

転入した緑川学園でのモットーは『喧嘩しない。ビバ・女子高生』だったのに、鷹臣（担任）のせいで風紀部に入り影で学校の治安を守ることに。

ちなみに初動は番長潰し。

表ざたに喧嘩ができないので（元番長とは知られたくないから）、裏風紀部員として、うさちゃんマン（うさぎの仮面つけただけ）と夏男に変装して活躍することも。

『いちごラブ』さんと文通していて、ペンネームは『スノウ』。伝書鳩はジヨセフィーヌと命名。

## No.2 早坂

真冬と同じクラスで席がお隣りさん。

金髪で喧嘩大好き！な性格のため、喧嘩売られるわ怖がられるわで一匹狼（真冬いわく一人ぼっち）。

でもすごく真面目ちゃん、予習は欠かさず授業も毎日出てる。

真冬といざこざがあつて、真冬を避けるために授業を休んだこともあつたが、勉強が遅れるのが心配すぎて結局学校で予習してたという（笑）

手先が器用。手芸部（マッチョ部）からのお誘いも多々ある。

うさちゃんマンに憧れを抱いてる。うさちゃんマン大好き。でも夏男はホモなのではないかと恐れてる。ちなみに真冬は変な子と認識。

今まで喧嘩は売るし買ってたけど、うさちゃんマンに説教（？）されて、喧嘩は売るだけになった。

喧嘩スタイルは攻撃のみで、避ける・防御は格好悪いと思っていた。それを見兼ねた夏男（真冬）が受け身を教える。でもただの前転に

なる。

かつこいい戦い方が好き。少年漫画みたいな。マッチョになりたい。修業すればスーパーサイヤ人みたいになれると思ってる。

No.3 佐伯鷹臣

真冬と早坂の担任兼顧問。数学の教師。

昔は東校の番長で関東を統一していた。その頃から真冬は手下みたいな、パシリみたいなポジション。周りに影響されやすい子供だった（『エースをねえ』や『アタックナンバーワン』とかの影響でいきなり修業し始めた）

なんだかんだ言って真冬のこととは信頼してる。

実は真冬が住んでるマンションのお隣りさん。

学校の生徒みんなから恐れられてるすごい人。

やくざも潰しちゃったりします。

No.4 由井忍

真冬達とはクラスが違うが、風紀部のためしよっちゅう遊びに来る。かなり忍んでる。けど忍べてないから普段の方が存在感が薄くなる。主従関係に憧れてる。元生徒会で風紀部を偵察するため風紀部に入部した。そのとき生徒会をやめる。それでも主人は生徒会長。頭はいいはずだけど、ある意味真冬より頭が悪い。鈍感。どうしてもいいことに一生懸命。

手裏剣を常備。

No.5 桶川饗太郎

緑川学園の番長。コンクリ粉砕可能。

趣味はモールス信号。風紀部の活動で番長潰しに来た真冬となんだかんだで仲良くするうち、真冬にドッキーン！となる。

真冬のイメージは男前。馬に乗ってる感じ。

夏男に負けて一度番長ではなくなるが、いろいろあって復帰。その

時に夏男の正体が真冬だと知る。

“ねこまたさん”という、三等身で男爵ヒゲ生やした猫のキャラクターにお熱。

自宅謹慎中に真冬と映画を観に行つて号泣したほど（観てた周りの人はみんな爆睡）。

『スノウ』と文通仲間。ペンネームは『いちごラブ』。伝書鳩を豆吉と命名。

自己紹介しちゃうゾ  
(後書き)

次から本編入ります！

あなたのお宅にお邪魔します。

「初めまして、黒崎真冬です。こんな見ず知らずの私を匿ってくれるなんて嬉しいな……！妹が出来てちょっぴり緊張するけど、みんなとなら仲良くしていけると思うの！これからよろしくね！」

どうだ、この予行演習！完璧でしょうよお！

「帰れ」

「ひ、ひどい……！いたいけなレディーに向かって何を言うの！」

「どこがいたいけなんだよ。つか、さりげなく居座るつもりか」

「うん」

「『うん』じゃなくて……」

ため息をついて頭を抑える一護くん。

だってしょうがないじゃんか。ここがどこか分からないし、早坂くん達いないんだもん。

にしても空座町ってどこ？

「連れもいねって言うし……どうすりゃいいんだよ」

あ、一護くん困ってる。

よし、今のうちよ！

「てことでご家族に挨拶してくる！！」

「あ！待て！」

部屋を飛び出そうとドアに駆け寄ったら、私が開ける前にドアが開いた。

「いつちつごおおお！！」

「ぎゃあああ！！」

ひ、ヒゲ面のオッサンが飛び込んできたよ！！

このままだと顔面衝突してしまうわ！

頑張るのよ真冬！元ヤンキー魂を見せるのよ！

私はぎりぎり横に飛びのいた。

「ふっ、私にかかればこれしきゴハッ」

「うわ！このクソ親父！！おい、真冬！大丈夫か！？」

ま……まさか飛んだ方向に壁があったなんて……

「だ、大丈夫。問題ない」

「いや、頭から血イ流れてっから」

そう言っで消毒液とガーゼを持ってくる。

……うん、なんか照れる。

「女なんだから気をつけろよ」

わぁお、早坂くんと同じようなこと言っ。やっぱり似てるよ。

「親父！」「お父さん！」

開いたドアからさっきの女の子達が入ってきた。

ああ可愛いな！この子達双子かな？

「あんた大丈夫！？」

「お父さんがごめんね！？」

私、思ったよ。

ここの家族はみんな優しい。

黒髪の子も茶髪の子も、なんだかんだ言って一護くんも心配してくれる。

「……？おい、真冬……？」

なんだか、泣けてくるよお！

「真冬ちゃんて言うんだ！あたし遊子！で、こっちが夏梨ちゃん！」

「よろしくね」

「よろしく！私のことは“真冬お姉ちゃん”て呼んでね！」

その後、一護くん達にあらましを説明したんだけど、みんな微妙な顔をしていた。

まあ、そうだよな。鉄筋が落ちてきたのに無傷だし、私一人だけがこの家の前に倒れてたらしいし。

どういふことなんだろう。

「一護くん、それで私達はどこに向かってるの？」

「下駄帽子のトコ」

誰よソレ。

「おい、浦原さんいるか？」

一件の家の前で止まった。駄菓子屋さんかな？『浦原商店』で看板がある。

遠慮なく引き戸を開けた一護くんの背中から中を覗くと、なるほど、下駄帽子がいた。

「おや、黒崎サンじゃないスか。どうしたんです？」

「こいつの連れが迷子らしくて。何か知ってるか？」

ぐい、と前に押し出される。

見るからに下駄帽子。不審者に見えなくもない。

「アナタお名前は？」

「黒崎真冬です」

……うーん。

この人、胡散臭い空気出してるけど強い。

なんとなく分かる。

そっという人の前だとなぜか固くなってしまふ。

「奇遇ですね。ちょうど先程、井上サンが貴女を捜している人を連

れて来まして」

「ほんと!？」

「ええ、奥にいますよ」

誰だろう? 早坂くんかな?

「お探しの方が見つかりましたよ」

ガラスと襖を開けると、

「わっ、崩れちゃった!」

「よっしゃあああ!! 次は俺の番だぜ!!」

「なに! させるかああ!!」

「おまえら俺に勝つたら赤点にするから」

「お、モールス」

なんでみんな集合してんの?  
なんで将棋崩し?

え、私だけ仲間割れだったパターン?

しかも気付いてくれたの番長だけだ！

「あれ、黒崎。大丈夫だったか？」

「……っ、早坂くううん！！」

「だー！来んじゃねえ！！ていうか由井も便乗すんな！！」

「なぜだ！黒崎はいいのに俺はダメなのか！？」

「てめえら離れろ！！！！」

「お、桶川！？落ち着け！」

「おまえらが落ち着けよ！！」

一護くんが怒鳴って、一斉に動きを止めた。その間に超シャイニ  
な女の子の隣をキープ。

か、可愛い……

「てめえ誰だ？」

ちょ、番長……いきなりメンチ切っちゃだめでしょ……

「誰だっていいだろ。それより浦原さん、こいつら……」

「ええ、アタシもちょうど言おうと思ってたところっす。この人達はどつやら別の世界から来たようですねえ」

……

……

はあ！？

「あたしの目の前にいきなり落ちてきたから、きつとそうだよ」

お隣りの超シャイニンガールがそう言った。

な、なんてこつたい！

私達、有名人になれるじゃない！

でもそんなことってありえるの？

いや、ありえなかったらこんな事になってないんだけどね！

「いつ戻れるか分かりませんし、霊圧もそこそ高いようなのでアタシ達で面倒見ましょう」

そんなこんなで、私は一護くんの家に泊まらせてもらうつとになった。

あなたのお宅にお邪魔します。（後書き）

真冬は黒崎家に、早坂と由井が石田家に、番長が茶渡の家に、鷹臣くんが浦原商店に配属されました。

石田と茶渡は完璧巻き添いですww

## キュービッド（前書き）

織姫と真冬の話。

今回から短篇みたいな感じの小話を完結しながら進みます。

## キュービッド

好きな食べものを合わせれば、もっと好きになると思うの。

私の隣にいる超シャイニンガール。

髪が綺麗な茶色で、目もぱっちり二重で。

女の子っていい匂いするしふわふわですぐ壊れそうで天使みたいって思っていたけど……

この子はまさに女神！女神ってホントにいたのね！

しかも名前が織姫なんて、見たまんまじゃないの！

もう可愛すぎて顔の筋肉が緩みまくりだ。

「真冬ちゃん達はどこから来たの？」

「それはあなたの心の中かゲフツ！！」

「馬鹿かおまえ」

「ひ、酷いよ鷹臣くん……言つくらい別にいいじゃんか……」

エルボー痛い……

ついでに私の心も痛い。

早坂くん達ならなんだかんでノってくれるのに。

もうそんなピュアな少年魂は持ち合わせていないとか？

まあ年齢不相应にオッサンみたいだし。今時の二十代みたく若くないし。サングラス掛けただけでヤクザだし。

いや、サングラスは番長も同じだけど。

「あつ、そうだ！あのね……」

いきなり女神様が手をお打ちになられた。

そのまま細い指を組んで津々と語りはじめる姿が可愛い、超可愛い。

「実は昨日夢で真冬ちゃん達を見たの！」

「ほんと！？ それって相思相あブッ」

「続けてくれ」

「うん」

痛いよ！話してる時にやるなんて鬼畜だ！

しかも『うん』て……

「それでね、真冬ちゃん達と一緒に鬼ごっこしてたんだけど、誰が黒崎君をノックアウトできるか競争になって、アベベが飛んできたの！」

……うん？

「そしたら真冬ちゃんが逆立ちで大食い選手権始めたから、あたしがチヨコ明太を作ってあげたんだよ！」

……なんでだろ、言ってることが理解できないゾ

「あ、もしかしたら真冬ちゃん達じゃなくて隣に住んでるおじいさんだったかもしれない」

ちょっと待って、おじいさんと私を見間違えるって……え？あれ？

なんか目から汗が……

「ふ、ふうん、すごい夢を見たんですね！」

「でしょ？で、実は続きがあつて……」

続くのかい！！

\*\*\*

「お、おい真冬、大丈夫か？」

「……ん……？あれ？一護くんだ。あ、夢か」

「いや、夢じゃねえから！！　　どんだけ現実逃避したいんだよ！」

「フフフ……そんなことなくてよ。織姫ちゃんは女神なんだから！」

「意味分かんねえ……」

「そだね」

今のは自分でもよく分からなかったよ。

外を見ると真っ赤な夕陽が沈んで、星がチラチラ光ってる。

「そろそろ帰るぞ」

「おーけー」

ここで早坂くん達ともさよならかあ。

まあ、明日もここに来るだろうし、感傷に浸るほどでもないんだけど。

やっぱり少し淋し……………くなんかないんだからね！

だって私、向こうでだって一人だったし！

自給自足できてたし！

子分に置いてきぼりされたこともあったし！

前の学校なんか友達いなかったし！逆に避けられてたし！

だから淋しくなんて――

「真冬ちゃん！」

淋しくなんて、

「また明日!」

ないわけあるかあああああ!!

「女神いいいグヘツ!!」

最後の最後でラリアットはきつかった……

るんたるんたるんたつた。

今なら空でも飛べそう!

「おい、落ち着けよ……」

「フフ、何をおっしゃるのかしら? 私はいつでも落ち着いていましたよ!」

「だから何キャラだよソレ」

だつてさ、だつてさあああ！

(裏声)『真冬ちゃん、また明日』なんて、女の子から言われたことなかったんだもん！

これはなに？

友達？そう友達！これが友達というやつなのね！

きつと明日は、

『おはよ、真冬ちゃん！真冬ちゃんがいなくて淋しかったよ、真冬ちゃん』と“真冬ちゃん”連呼してくれるに違いない！

「あー幸せえ……」

「はいはい、良かったな」

「てことで一護くん」

「あ？」

「今日は私が夕飯作ってあげる！」

こんなにいい日なら、あんまり得意じゃない料理もイケそうな気がするの！

「え、でも遊子が」

「さあ一護くん、君の好きなものは何だい!？」

「チヨコ」

「ぶふッ、可愛いもの好きですね!」

「笑うなバカ」

「笑ってないよ!ぐふふッ。他には?」

「明太子」

「なある……よし!今日の夕飯決まったよ!! チヨコ明太にします!」

「なんだよソレ……んなまずそうなもん作るなよ……?」

げっそり文句垂れるけど知ったこっちゃない。

言われなくとも作りませんとも。

だってチヨコ明太を一護くんに食わせるのは織姫ちゃんの役割みたいだしね。

ふっふーん!私が天然女神の織姫ちゃんと、にぶちんな一護くんの仲を取り持ってやろうじゃないか!

愛のキューピッド、さすが私！ひゅーひゅー。

「ナニにやけてんだよ」

「ふっ、私に任せておきなさい」

意地でも少女マンガ的な展開にしてみせるんだから。

## キュービッド（後書き）

謎ですね（笑）

何を書きたかったんだろ自分は。

これからも、こんな意味が分からない感じで進んでいきます。シリ  
アスな話も入れると思います。

でも基本はこんな感じで（＾P＾）

次は早坂くん達の話かな。

ここまで読んでいただき、ありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8319y/>

---

CHAOS!!

2011年12月3日16時52分発行